

タ瀧水ヲ用ヒ、我身上ニカハリテ意ヲツクシ、ヨク出來テ汝等ガ徳分ナレバ、必念入造ルベシト
下知シ、樽モ杉ノ上木ヲ以テ作ラセ、彼是骨折、世話致シアリケルニ、其誠信ニヨレバニヤ、美酒ド
モ造リ出シテ、佳味南都伊丹ニオトラヌ上酒トナリ、價モ下直ニ賣シメケレバ、土地大ニ其利ヲ
得テ、今ハ姫路酒ニテ西國マデモ通用ス、其上米ハ皆大坂ニテ運送セシニ、酒ヲ造リ初メテヨリ、
地拂ノ米モ多キ故、米直段モ自然トヨロシク、土民ドモ潤ヒケル、

〔倭訓栞前編十〕さけ 吉備の酒は萬葉集に見ゆ、庭訓にも備後の酒といへり、

〔萬葉集相四〕丹生女王贈太宰帥大伴卿歌二首〇一

古人乃令食有吉備能酒、痛者爲便無貫、實賜牟、

〔庭訓往來〕能登釜、河内鍋備後酒。

〔寛政武鑑〕松平安藝守重晟〇安藝 時獻上三。三原酒〇備

〔紀伊續風土記物産十下〕酒

麻地酒は府下廣瀬嘉左衛門が家に製す、是も亦公儀へ獻じ給ふこと、元和年中より始まるといふ、

〔筑前續風土記土産二十七〕酒 近年福岡博多に醸す酒甚美なり、其上品は南都北都の産に相つげり、

新しき杉樽に入、大坂に上すれば、彼地の人も又大坂の産に勝れると稱す、各其かもせる酒に新に名を付、其品あげて數へがたし、其美名を著さんとなり、直方にも良醞を作る、宰府にて染川、思川など云酒を醸す、其味頗美也、〇中 亦福岡博多に焼酒をも多く製す、

〔寛政武鑑〕松平美濃守齊隆〇筑前 時獻上十一月 博多煉酒

〔毛吹草三〕豊後 麻地酒〇朝生酒トモ書、土

〔寛政武鑑〕木下主計頭俊懋〇豊後 時獻上十一月 麻地酒